

令和7年11月6日

## 兵庫県内経済情勢報告

(令和7年10月判断)

### 1. 総論

【総括判断】「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

| 項 目  | 前回 (7年7月判断)        | 今回 (7年10月判断)       | 前回比較                                                                                |
|------|--------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 総括判断 | 持ち直しのテンポが緩やかになっている | 持ち直しのテンポが緩やかになっている |  |

(注) 7年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、横ばいの状況にある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。以上のことから、県内経済は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

【各項目の判断】

| 項 目  | 前回 (7年7月判断)            | 今回 (7年10月判断)           | 前回比較                                                                                  |
|------|------------------------|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 個人消費 | 横ばいの状況にある              | 横ばいの状況にある              |  |
| 生産活動 | 緩やかに持ち直しつつある           | 持ち直しつつある               |  |
| 雇用情勢 | テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある   | テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある   |  |
| 設備投資 | 7年度通期は前年度を上回る見込みとなっている | 7年度通期は前年度を上回る見込みとなっている |  |
| 企業収益 | 7年度通期は減益見込みとなっている      | 7年度通期は減益見込みとなっている      |  |

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、テンポが緩やかながらも持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費「横ばいの状況にある」

**百貨店・スーパー販売額**は、前年を上回っている。百貨店販売額は、万博開催の影響により来店客数が伸び悩んだことなどから、前年を下回っている。スーパー販売額は、物価高騰による値上げに伴う客単価の上昇などから、前年を上回っている。

**ショッピングセンター販売額**は、早期に気温が上昇し夏物衣料の需要が前倒しとなったことなどから、前年を下回っている。

**コンビニエンスストア販売額**は、都市部の訪日客需要が堅調なことなどから、前年を上回っている。

**ドラッグストア販売額**は、UV ケア商品やインフルエンザ等の流行に伴う医薬品が堅調であったことなどから、前年を上回っている。

**ホームセンター販売額**は、昨年の防災用品特需の反動減などから、前年を下回っている。

**家電大型専門店販売額**は、PC 買替や新型スマートフォン需要が堅調であったことなどから、前年を上回っている。

**乗用車の新車登録届出台数**は、前年を下回っている。

**宿泊施設稼働率**は、観光需要が万博へ集中したことなどから、前期よりも下降している。

これらのことから、個人消費は、横ばいの状況にある。

#### (主なヒアリング結果)

- 入店客数は低調だが、富裕層向けが好調で客単価は上昇しており、売上を維持している。万博に人が流れており、キャンペーンや催事以外のタイミングでは入店客数が伸びない。(百貨店)
- 雨や猛暑の影響で来店客数が減少したものの、値上げにより客単価は増加している。(スーパー)
- 夏物衣料は、6月に梅雨が明け、一気に暑くなったことにより前倒しで売れたため、7月以降は売上が低調であった。(ショッピングセンター)
- 酷暑で日中の客足は鈍るが、中心部は訪日客を含め好調が続く。淡路島等夏の行楽地は、万博に人が流れているためか前年より少ない印象。(コンビニエンスストア)
- 猛暑により来店客数が減少したものの、UV ケア商品や、インフルエンザ等の流行に伴う医薬品が堅調に売れており、売上は横ばい。また、物価高に伴い買い控える傾向が見られる。(ドラッグストア)
- 昨年の南海トラフ地震臨時情報により防災用品需要が大幅に伸びていたが、今年は反動減。また、昨年県内で雹の被害があったことから外装建材の需要が大きかったが、今年は反動減。(ホームセンター)
- 前年からの猛暑を受けてエアコンが前期(4-6月期)に売れてしまったが、OSのサポート終了に伴うPCの買い替え需要と新型スマートフォンの発売により売上は堅調に推移した。(家電量販店)
- 物価高騰が続いているものの自動車に関しては節約志向は特段見られず、売上高は横ばいで推移しているほか、一部車種の改良に伴い足もとの受注台数は前年よりも増加している。(自動車販売店)
- 売上、稼働率ともに順調に推移しており、神戸空港の国際線化に伴う宿泊予約も見られる一方で、旅行者が万博に流れてしまい、神戸に来る旅行者が減少していると感じている。(宿泊)

## ■ 生産活動「持ち直しつつある」

鉱工業指数（生産）は、「輸送機械」が低下しているものの、「汎用機械」や「電気機械」等が上昇している。また、企業からは、輸送機械関連の需要が低迷しているといった声がある一方、半導体・AI・データセンター向けが堅調に推移しているといった声や中国向けの一部で回復しているといった声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は、持ち直しつつある。

### （主なヒアリング結果）

- 中国での需要が回復し建設機械向けの増産要求を受け、生産が逼迫。受注が多く需要に対して生産が追いつかない局面がある。（汎用機械）
- 生成AI等で使用されるメモリー半導体向けの需要が堅調。生産がひっ迫しており、納期が延びている傾向。一方、米国の通商政策の影響もあり、自動車向けの需要は停滞。（電気機械）
- 米国等でAIが革新的に進み、電力が逼迫して発電所需要が高まっていることから、電力プラントメーカー向けにまとまった受注がある。（金属）
- 半導体製造装置向けが好調。（生産用機械）
- 国内向けは安定的に推移しているほか、中国向けが好調となっている。（化学）
- データセンター向けや半導体製造装置向けが引き続き堅調に推移している。（非鉄金属）
- 値上げを行った一部製品の売上がやや低調に推移しているが、それ以外は生産量及び売上ともにほぼ横ばいで推移している。（食料品）
- 船舶関連は物価上昇に伴う船価の上昇・高止まり等の影響で需要が弱い。航空関連では、コロナ以降旅客需要は回復しているものの、航空機メーカーのサプライチェーンの制約で生産数量を上げられない。（輸送機械）
- 米国の通商政策に伴い完成車の輸出量が減少していることなどから自動車の生産状況に弱い動きがあるため、当社製品の需要にも弱い動きが見られる。（鉄鋼）
- 米国の通商政策の影響について、以前までは先行きに対する漠然とした不透明感が漂っていたが、大統領令署名により不安感が払しょくされたとの声が一部である。（経済団体）

## ■ 雇用情勢「テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある」

令和7年8月の有効求人倍率は、受理地別では0.95倍、就業地別では1.09倍で推移している。

また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和7年7～9月期調査では30.7%ポイントと引き続き「不足気味」超となっている。

これらのことから、雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 多くの企業において人手不足となっているが、人件費や原材料費の高騰が収益を圧迫しているため、一部で求人を控えている企業もある。(公的機関)
- 設計・製造部門の技術者が不足している。業界全体で人員の取り合いとなっている状況で、不足分は外注して補っている。(汎用機械)
- 工事部門の技術者が不足している。業界全体として技術者の高齢化が進んでいると感じており、人材の取り合いとなるが、各社による人材の囲い込みが進んでいるため補充できない。(建設)
- 社内全体的に不足感があるが、特に業界全体としてドライバー不足が顕著。人員確保のための賃上げが負担。(運輸、郵便)
- 正社員の中途採用については民間の転職エージェント等を利用し募集している。(小売)
- 人手不足を補うため、スポットワークを活用している。(小売)
- 多くの企業が人手不足となっており、各社とも人材を集めるために様々な方策を採っている。(経済団体)

## ■ 設備投資「7年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和7年7～9月期調査）でみると、7年度通期の設備投資は、非製造業では「運輸・郵便」、「不動産」等が前年度を下回っているものの、製造業では「鉄鋼」、「輸送用機械」等が前年度を上回っていることから、全産業では「前年度を上回る見込み」となっている。

## ■ 企業収益「7年度通期は減益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和7年7～9月期調査）でみると、7年度通期の経常利益は、製造業では「鉄鋼」等が減益見込みとなっており、非製造業では「運輸・郵便」等が減益見込みとなっていることから、全産業では「減益見込み」となっている。

## 【その他の項目】

- **住 宅 建 設** 新設住宅着工戸数（令和7年8月、後方3ヶ月移動平均）でみると、前年を下回っている。
- **公 共 事 業** 前払金保証請負金額（令和7年9月、年度累計）でみると、前年を上回っている。
- **輸 出 入** 神戸港の通関実績（円ベース、令和7年6～8月、3ヶ月平均）でみると、輸出は、有機化合物、映像機器等が減少していることから、前年を下回っている。  
なお、輸入は、前年を上回っている。
- **企 業 倒 産** 企業倒産件数（令和7年7～9月、3ヶ月平均）は、前年を上回っている。
- **企 業 の 景 況 感** 法人企業景気予測調査（令和7年7～9月期調査）の景況判断BSIでみると、現状判断は「下降」超となっている。  
先行きについては、全産業でみると、令和7年10～12月期、令和8年1～3月期いずれも「下降」超で推移する見通しとなっている。

【問い合わせ先】  
神戸財務事務所 財務課  
TEL：078-391-6942